

環境調和創造企業をめざして

本年8月、南アフリカのヨハネスブルグで「環境開発サミット」が開催されました。

1992年のリオサミットから10年が経過し、この間、世界中で環境保全に関する様々な活動が展開されました。国内においても、環境保全の基本的な体制が各種環境法の立法や改正によって急速に整備され、また、企業レベルでもISO14001環境マネジメントシステムの認証・運用に代表されるように、環境保全を経営の中心におき、重視する企業が増加しています。

当社は、1890年の創業以来、産業インフラ・機械・環境施設・住宅機材など、幅広い分野で人々の生活や社会基盤の整備に関わる事業を展開し、社会に貢献すべく努力してまいりました。

その結果、地球環境保全に関する数々の技術とノウハウを蓄積するに至り、環境保全事業、環境修復事業を推進する上で、当社の果たすべき役割は、より一層重要になっていくものと考えています。

地球環境保全活動については、経営課題の最重要項目の一つとして取り組んでまいりましたが、昨年「クボタ地球環境憲章」をグループの憲章としての改訂を行うとともに、憲章を具現化するために、2005年度までに取り組むべき中期の課題・目標を事業部、事業所毎に具体的に定めた「クボタ環境自主行動計画」を策定しました。

今後はこのクボタ環境自主行動計画を着実に実行することにより、クボタグループの環境経営の推進と強化を図り、環境調和創造企業をめざし努力していきたいと考えています。

この度、2001年度の環境保全活動の結果をまとめた「環境報告書2002」を発行するはこびとなりました。

今回から地域社会との環境コミュニケーションの促進、グループ環境経営の推進を狙いとして、事業所サイト毎の環境負荷データ及び関連会社9社を含めたグループ全体の環境負荷データも併せ掲載しています。私どもの今後の活動にむけ、皆様方の忌憚のないご意見を賜れば幸いです。

2002年9月



株式会社クボタ 代表取締役社長

土橋 芳邦